

新型コロナウイルス（COVID-19）

ワクチン後の乳がん検診について

定期乳がん検診はワクチン接種後 6 週間以上の間隔をあけて受けるようにお勧めしています。

新型コロナウイルス（COVID-19）ワクチン接種後に、特に接種した腕の脇のリンパ節が腫れる例が報告されています。これは、体内に入ったワクチンに対して反応性の変化が起きているためで、通常は時間経過とともに改善し、特に治療は必要ありません。ただし、ワクチン接種後すぐに定期乳がん検診を受けると、このリンパ節の腫れが異常所見として認識され、偽陽性の結果につながる恐れがあります。このため現在当院では、新型コロナワクチン接種後 6 週間は間隔をあけて検査を受けることを勧めています。

定期乳がん検診のためにワクチン接種の日程を遅らせる必要はありません。

心配な症状のある方への精査目的の検査や、以前の陽性所見の経過観察のための検査は通常通り行います。

以上の内容をご理解した上で、健康診断のスケジュール変更をご希望の方は当院までご連絡下さい。

日本クリニック

電話：847-952-8910